

□海外文献紹介□

大腸癌の肝転移—ヘリカル CTAP による発見と偽陽性

Hepatic metastases from colorectal cancer: Detection and false-positive findings with helical CT during arterial portography: *Soyer P, Bluemke DA, Hruban RH, et al* (Radiology 193: 71-74, 1994)

大腸癌の肝転移に対して、ヘリカル CTAP を用いた誤正率を調べ、ヘリカル CTAP の有用性を決定するために検索を行った。

対象は、1991 年 3 月から 1994 年 1 月までの 34 か月にヘリカル CTAP で肝転移を指摘された大腸癌患者 60 症例。うち 37 例は、広範囲に肝転移を認めたため除外した。

23 例(うち 10 例が男性)の年齢は、43~77 歳で平均 63 歳である。22 例が結腸癌からで 1 例が直腸癌からである。うち 2 例は肝転移の再発である。23 例に対しては部分肝切除術を実施した。術中、超音波検査を実施し新たに発見されたものに対しても同時に切除術を実施した。ヘリカル CTAP から手術までの期間は 1~17 日(平均 5 日)である。使用する造影剤はイオジンで、150 ml を 3 ml/秒の速度で注入する。CT 開始後、30~35 秒後に造影剤を注入する。読影は 2 人の放射線科医が担当した。

23 症例に対して 35 か所の肝転移を発見し、すべて切除術を実施した。1 症例に対して肝転移の数は平均

1.5 個(1~4 個)、大きさは平均 37 mm(4~95 mm)であった。35 か所のうち、ヘリカル CTAP で指摘できたのは 33 か所であり、94%の精度であった。指摘できなかった 2 個の径は、各々 4 mm と 5 mm であった。これらは術後偶然指摘され、ヘリカル CTAP で retrospective に見直しても指摘できなかった。一方、ヘリカル CTAP で指摘した 5 個(4 症例)は、偽陽性であった。

以上から、ヘリカル CTAP は大腸癌の肝転移の発見には有用であるが、より良い評価のために、CTAP と比較が望まれる。

(愛知県がんセンター消化器内科

小野 博美 抄)